TANGO

丹後普及センターだより

発行 平成19年8月
〒627-8570
京都府京丹後市峰山町丹波855
京都府峰山総合庁舎内
京都府丹後農業改良普及センター
電話 0772-62-4308
FAX 0772-62-5894
http://www.pref.kyoto.jp/tango/no-tango-nokai/index.html
E-mail:tanshin-no-tango-nokai@pref.kyoto.lg.jp
第7号

これからの普及活動の展開（3カ年の重点課題）

日頃は、普及センターの活動につきましてご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

普及センターでは、新たな農政の展開や丹後地域の実態や条件、可能性を踏まえ、今年から3年間の基本的な計画のもとに次の事項を重点とした活動を展開することとしています。

1. 魅力ある農村づくり支援と農業の担い手育成

◎　集落の実態や条件に即した集落のビジョンづくりや実現に向けた指導助言などの支援を強め、魅力ある農村づくりを進めます。

◎　各種の講座や研修会、個別指導を通じ、担い手認定農家などの育成、若い農業者の技術・経営支援、農村女性の役割を高めるため起業活動の支援などを行います。

2. 丹後コシヒカリと京野菜等の産地づくり

◎　良食味米を地域ぐるみで生産する「丹後コシヒカリの里づくり」を呼びかけ、高品質低コスト稲作の推進と京野菜、特産野菜、果樹、花の産地づくりや小大豆の団地化による低コスト生産体系の普及等を通じた豊かな農村づくりを積極的に進めます。

3. 丹後の特色を活かした新たな生産・流通チャンネルの開拓

◎　丹後の有効な資源の循環利用による環境保全型農業のモデルづくりや波及を通じて、環境や人にやさしい農業を推進します。

◎　農産物の直売所の充実や直売施設などのネットワーク活動の支援、加工品開発などを進め魅力ある新しい農業へのチャレンジを支援します。

4. 丹後国営開発農地における畑作経営の確立

◎　茶の産地づくりを進めるための技術、経営指導や「金時ニンジン」「聖護院ダイコン」などの産地づくりを進めると共に、法人化を含めた安定的な農業経営体の育成を進めます。

普及センターは、府民に開かれた組織として各種講座や現地研修会などを広く呼びかけ実施すると共に、農業経営や産地づくり、担い手づくりなどの身近なアドバイザーとして活動する所存ですので、お気軽にご相談ください。

丹後農業改良普及センター所長　　東　　哲

～ 知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権 ～

丹後の農業を支える！

丹後では、6,400戸の生産者が自然風土を活かし、5,500haの農地で高品質な水稲・野菜・果樹・畜産・花き等の生産に取り組んでおられます。
その中の何人かの方に生産に対する思いを伺いましたので紹介します。

久美浜町黒大豆部会

～多様な生産者が担う黒大豆産地～

〈久美浜町〉　關　昌弘 部会長

部会の黒大豆栽培面積は約50ha。昨年の黒大豆販売高は、久しぶりに１億円を突破しました。

高齢化が進み、いかに次の世代にバトンタッチしていくかが課題です。ただ、今で言う『担い手』だけでは産地は維持できないと考えます。多様な生産者層が担うことで質と量が維持できるのだと思います。

様々な人が担うためにも技術の向上・改良は欠かせません。まず、年輩の方や面積拡大を目指す方にも有効な省力栽培技術を確立する必要があります。次に、収量や品質の向上。どうしたら向上するのかではなく、なにが良くないのか体系的に整理する必要があります。これらの整理・提案は技術指導機関に期待するところです。

最後に、生産振興にはムードづくり、バランスをもった仕掛けが大切です。それは部会の役割だと考えています。

網野町花き生産組合

～技術研鑽が支える高品質ユリ産地～

〈網野町〉　野村栄助 組合長

網野は古くからのチューリップ球根産地でした。この球根を利用し切り花生産を始めたのを契機に組合が誕生し、10年以上の年を重ねています。

現在、17戸が４haで切り花生産に取り組んでいます。昨年は、約56万本を６市場に出荷しました。今秋からは１市場開拓して７市場に出荷したいと考えています。

販売品目は、ユリを中心にチューリップ、ヒマワリ、ヒペリカム等です。一番力を入れていることは切り花の品質向上です。出荷時には生産者自らが検査員として厳しい目で品質確保に努めています。出荷時期が集中しないよう作付けの分散にも取り組んでいます。また、市場のニーズに応えるため新しい品種の検討も行っています。

普及センターに望むことは、需要拡大につながる様々な情報とＰＲです。

今後は、販売額１億円を目指して、研鑽を深めて今以上に市場評価を得ていきたいと思っています。

丹後町施設園芸組合

～京みずなを栽培して～

〈丹後町〉　岡田しげよ さん

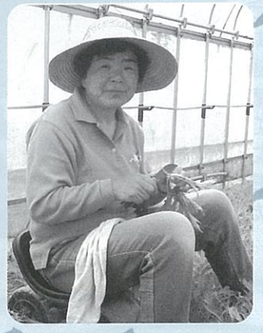
３棟のハウス6.8aをほぼ周年で栽培しています。みず菜は仕事を辞めた翌年の平成13年から始めました。時間に縛られないことや雨の日も作業ができ、男手に頼らず栽培・出荷ができるところも魅力です。勤務していた主人も栽培当初から播種作業をしてくれていましたが15年に退職してからは一緒にしています。

丹後町施設園芸生産組合女性部活動では、これまでに袋詰め調製研修やみず菜の調理講習、一昨年は京都の「いもぼう」で京料理を楽しみました。

販促活動では京都市内のスーパーをはじめ昨年は横浜、今春は兵庫県三田市の大型スーパーへも出向きました。販促活動の現場では自分たちが作ったモノがどのように売れていくのか分かりますので多くの生産者の方にも経験していただきたいと思います。

虫対策に気を使わなくてはなりませんし、高値安値はありますが、みず菜は１年繰り返し作ると収入的には安定していると思います。

普及センターにはいいみず菜を作る方法を教えほしいと思っています。



丹後果樹研究同志会

～人と人とのつながりを大切に～

〈久美浜町〉　牧野　直 会長

丹後果樹研究同志会は50年以上の歴史のある果樹農家の団体で、新しい生産技術の実証等に取り組み、栽培技術の向上をめざして日々研鑽をつんでおります。

私はナシ、モモ、ブドウを栽培しておりますが、果実の販売環境は競合商品の多様化や個々の販売単位の縮小化等により、年々厳しくなっております。その様な中でも「あの生産者のあの果実でなければ」と言われるお客様を大切にすることを心掛けています。お盆に帰省する方々の口コミにより、新しいお客様からのご注文があったときなどは、本当にうれしく、この仕事ならではの充実感を感じるときです。

丹後は大きな果樹産地ではありませんので、人と人とのつながりを大切にした生産・販売が重要です。本同志会の仲間も増やし、活動をさらに活発にしていきたいと考えています。

また、関係機関の方々には様々な機会を通じて丹後の果実のＰＲをしていただき、果樹農家の応援をしてほしいと思っています。

丹後地域の動き

加工グループ「ぱうわう」の食育活動は大盛況

京都府立海と星の見える公園で「ぱうわう」が住民を公募して、大豆とひまわりの栽培から加工まで体験する「大豆・ひまわりプロジェクト」を実施。

６月19日には普及センターの指導のもと、地元養老保育園の園児達がひまわりの種まきを担当し、参加した地元住民は、前回６月５日に播種し育苗していた大豆の定植作業を行いました。

企画した「ぱうわう」は、子ども達や参加者のよろこぶ表情に満足な様子でした。

多様な担い手を育成、丹後農業基礎講座開講

団塊世代や女性等の農業参入を目的として「丹後農業基礎講座」を今年も開講。

20名が参加し、初回は、夏野菜栽培の基礎技術を学びました。12月までに全８回の講座を予定しており、野菜・作物の栽培技術や農業機械の操作方法等の農業の基礎知識を学んでいただきます。

講座を通じ、受講者の技術と営農意欲を高め、農業の担い手のすそ野拡大を図っていきます。

丹後地域えびいも生産者育苗互見会

４月18日京丹後市、与謝野町の育苗状況を生産予定者18名（全30名）が、ＪＡ、丹後農研、普及センターなど関係機関とともにほ場を巡回しました。

現地ではそれぞれの栽培農家から種芋貯蔵や催芽・管理の工夫を聞き、活発に質疑応答が交わされました。

普及センターからは5月上～中旬の定植に向けた管理上の留意点を説明しました。

今後も生産向上に向け指導を続ける予定です。

水稲疎植栽培移植実演会を開催

５月16日、17日の２日間にかけて、水稲疎植栽培の移植実演会を京丹後市大宮町森本と宮津市今福で行いました。

農家24名の参加があり、収量性や品質、経費等について質問が多く出され、関心の高さが伺えました。

普及センターでは、地域戦略推進事業「丹後コシヒカリの里づくり推進事業」の一環としてモデル集落営農組織を対象に実証展示ほを設置し、品質向上に向けた普及活動を展開していきます。

PRINTED WITH SOY INK
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています